議　事　概　要

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td colspan="3">令和５年度　第４回豊中市健康福祉審議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和５年（2023 年）11 月 29 日（水）　14 時 00 分～16 時 00 分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>豊中市役所第二庁舎３階大会議室
（Zoom 参加可）</td><td>公開の可否</td><td>可・否</td></tr>
<tr><td colspan="2">事 務 局</td><td>福祉部地域共生課</td><td>傍聴者数</td><td>０名</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開しなかった理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">牧里委員（会長）、大坪委員、谷川委員、小池委員、平岡委員、
渕上委員、波多野委員、上田委員、澤村委員、星名委員、武市委員、
多田委員、永井委員
以上、13 人（欠席：石川路子委員、濱島委員、石川久仁子委員、前田委員、滝下委員、村上委員、別木委員）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">〇福祉部
小野部長、甲斐次長（地域共生課長）、坂口次長（長寿安心課長）
酒井障害福祉課長、山岸長寿社会政策課長、荒木田福祉事務所長
(地域共生課)良本主幹、梅原補佐、畑山係長、金子主事、平松主事、山口
〇健康医療部
寺田次長（保健安全課長）、山羽医療支援課長、岸田コロナ健康支援課長
〇都市経営部　安井危機管理課長
〇市民協働部　濵政参事（くらし支援課長）
〇豊中市社会福祉協議会（以下、市社協）
今井常務理事、佐藤生活支援課長、出補佐</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議　題</td><td colspan="3">案件（１）第５期豊中市地域福祉計画素案
案件（２）社会福祉協議会_第５期豊中市地域福祉活動計画の策定に向けて</td></tr>
<tr><td colspan="2">審議等の概要</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
</table>

議事要旨

案件（１）第５期豊中市地域福祉計画素案

（事務局）
・「第５期豊中市地域福祉計画素案」について説明

（委　員）
・７ページの 8050 問題の注釈について修正してもらったが、一般の 50 代の介護者となると一気に対象が広がってしまう。障害のある子の支援は難しく、一般の 50 代の介護者と、福祉サービスを使って自立できない子を一緒にされると違和感がある。

（事務局）
・80 代の親と 50 代の子では様々な課題が今後出てくると言われており、8050 問題については、広義の意味として記載したが、再度ポイントを絞るなどして調整したい。

（会　長）
・8050 問題は、福祉の制度から漏れているという問題をとらえるための１つの具体的な例であり、制度の網目からこぼれる人・世帯をどこが対応していくのかという事例である。
・8050 問題については、これを地域福祉が対応していくということで、他の計画や制度等との関係をとらえて考える必要がある。
・例えば、障害者計画とこの問題をどこまで分担していくのかなど、障害者施策をどこまで広げていくのかという検討も必要となる。

（委　員）
・8050 問題の現在の注釈については、広がりすぎると対象がぼやけてしまうので、再検討をお願いしたい。

（事務局）
・注釈についてはかなり検討した。ケース例については制限があるが、例えば「50 代の子に障害があり…」という表現ではどうか。

（会　長）
・8050 問題は制度とつながっていないということを問題提起する事例であり、色々な例・ケースが考えられる。その点も踏まえて検討してほしい。

（委　員）
・全体の感想として、トピックはわかりやすく、取組みの全体像が見えて非常に良いと思った。
・計画の進捗状況を評価するには何らかの目標が必要である。「６年後の姿」を設定しているが、レビューの際には指標があった方がよいのでは。何かを設置して終わりではなく、できている、できていな

いを振り返ることは重要となる。
- 例えば、素案 P19 の「６年後の姿」の１つ目についても、この定例会議をさらにどこまでやっていくかが重要。何人に対応できたのか、どれだけのスピードで対応できたのかなど。また、３つ目のシステム導入についても、いつまでにどれくらいという感じで設定されたどうか。
- Ｐ23 トピック 1-2-2 のはぐくみセンターの支援事例などの取組みのアーカイブを踏まえ、さらによくするための対応などについて数値指標を設定してはどうか。

（会　長）
- 地域福祉計画については、サービスだけではなく、市民の取組みもあるので、目標の数値化が厳しい部分もあるが、数値目標は設定した方がよい。
- ただ、無理矢理、数値目標を設定しても市民がそれを見たときどう反応するか。
- ６年間のロードマップのようなものは必要であり、数値目標でなくても、評価の指標としてそのようなものが必要ではないか。
- ソーシャルインパクトとして、豊中がどのように変化したかも含めて、どのような点を数値目標として設定するか、そもそもロードマップ的なものを事務局は持っているのか。

（事務局）
- 数値目標についても議論をしてきた。分野別計画では、数値目標についても踏み込んで整理しており、指標も設定している。
- ６年間の工程というか、ロードマップについてはすべての事項について設定しているわけではない。
- 健康福祉審議会においても、計画の進捗管理をしていただくことになる。

（会　長）
- 個人のケアプランの記録などは残しているのか。

（事務局）
- 複合的な課題を抱える世帯などに対してアセスメントを行い、トータルケアプランをつくり、一つ一つのケースを追いかけて状況等の把握に取り組んでいる。

（会　長）
- 例えば、ケアプランの件数をあげることはできるのではないか。それが増加したらよいのか、減少したらよいのかということにもなるが、まずはそのような数値を計画で設定することが大事である。
- 審議会では質的な検討はできるが、実際どうなっているのかの確認は指標がないとできないのではないか。

（委　員）
- 数値指標については、例えば、認知症サポーターを増やすなどの設定があればわかりやすい。ボランティアをしたい人や役に立ちたいという人も増えており、そこを次回までにもっと増やしていくとか。
- 人づくりは非常に大事であり、介護職員初任者研修のような場を行政がつくれば、もっと増えていくのではないか。新しい取組みをされたどうか。

（事務局）
- 基本目標２、３については、行政だけではなく、社協とも協力して進めていく必要がある。
- 地域の役に立ちたいと考える人と、実際に取り組んでいる人にはギャップがあり、役に立ちたいという人を、地域活動につなげていくためのピンポイントの取組みなどを含めて、色々なことを検討している。
- このような取組みをどこまでやっていくか、数値指標の設定は難しいかもしれないが、何ができたのかという進捗管理はしていきたい。

（会　長）
- 素案 P64 に転入・転出の状況があるが、豊中市は１年間に約４万人が出入りしており、５年で 20 万人が出入りしていることになる。10 年たつと 40 万人で全人口が入れ替わる計算になる。そのような中で、市民が流動しないことを前提とした今までのやり方では、地域課題の解決は難しく、今まで通りではないやり方を考えていく必要がある。このような状況で、人づくり、人材育成をどのように考えていくのか。地域福祉は今、そういうステージに来ている。多様な手法で工夫しないと人口流動化には対応できない。
- 重層的支援体制整備事業のロードマップについて、現状で数値目標までは不要だが、６年間で漠然と進めていくわけではないと思う。このロードマップが評価にとって非常に必要となる。
- 課題解決の出口としてのサービス資源について、事業者と市民がどれだけ協力できるかがポイント。
- 地域福祉については政策目標にあがっているが、それをどうやって実行するかが課題。サブプラン、ロードマップなどがないと評価しろと言われても大変である。

（委　員）
- 素案 P60 の 8050 問題の用語説明について、これは単に 80 代と 50 代の組み合わせではない。現状で 50 代と 20 代の組み合わせで問題になっていないことが、80 代と 50 代では問題になってくる。この注釈については工夫をしてほしい。
- 同じく P61 のヤングケアラーについて、定義は難しいと思うが、子どもの教育を受ける機会などが脅かされつつあることがヤングケアラーの大きな問題であり、現状の用語説明ではヤングケアラーの深刻さが伝わってこない。こちらについても工夫をしてほしい。

（事務局）
- 8050 問題とヤングケアラーの注釈については他も含めて調整していく。

（会　長）
- 8050 問題もヤングケアラーも孤立していることが問題。孤立無援の深刻さ、そこに気づいてもらえるように記載を練ってもらう必要がある。

（委　員）
- 素案 P27 の主な取組み内容の③について、発達障害で地域移行に問題というところに違和感がある。地域移行に問題があるというのは、発達障害ではなく精神疾患なのではないか。

（委　員）
- 2000 年ごろから発達障害については狭義の障害のイメージがついたが、1960～70 年代では正常に発達していない人を医学的に一部の人達が「発達障害」と言っていた。時代の変化とともに、発達障害の意味が変わってきている。

（会　長）
- 「発達障害」は時代とともに意味が変化してきているため、③については「発達に課題がある人」ではなく「福祉に課題のある人」という記載でよいのではないか。

案件（２）社会福祉協議会_第５期豊中市地域福祉活動計画の策定に向けて

（事務局・社会福祉協議会）
- 「社会福祉協議会_第５期豊中市地域福祉活動計画の策定に向けて」について説明

（会　長）
- 補足的に。豊中市の特徴は校区福祉委員会の活動が非常に活発であること。東京ではあまり地区社協などはない。主に西日本では小学校区単位で地区福祉委員会の活動が活発である。
- 豊中では校区福祉委員会に今まではＰＴＡから活動者が入ってきたが、今はそれがない。だからこそ、計画的に人づくりなどに取り組んでいくことが大事になる。
- 説明があったアクションプランを市がどのように認識するか、行政が校区福祉委員会の活動などをどのように認知するか。認知により、それが市民の活動の活性化につながる。いわゆる「行政のお墨付き」というもの。そして、市がどうやって市民や事業者などのメッセージを出していくのか。
- 職住分離も地域づくりを難しくしている。
- 社協をはじめ、国際交流センターや男女共同参画センターなどの中間支援機関との横の連携を図り、行政としてはプラットフォームを作っていくべき。社協のアクションプランは足元である地域を強化していくものである。

（委　員）
- 素案Ｐ25 の「６年後の姿」の１つ目について、健康づくり推進委員会では、豊島校区で福祉とタイアップしてフレイル対策の取組みを進めている。そのような中で、健康づくり推進委員会は行政においてどんな位置づけになるのか。
- 健康教育の取組みをやってもお茶であれば予算もでるが、お菓子などはでない。コロナの関係もあると思うが、和気あいあいでやっていくためには必要なこともある。また、この審議会では行政側に知っている顔が見えない。健康福祉審議会というのに、健康関連の課がいないのはなぜなのか。

（事務局）
- 健康関連の課の職員は zoom で参加している。予算に関しては別途お話をしたい。

（会　長）

・健康と福祉について、狭い福祉ではなくて、そこに至るまでの取組みが重要になる。ウェルビーイングについて、どのような施策を打っていくべきか。まだ、みんながそれについて共通認識を持てていない。

・素案の修正については、会長と事務局で対応していく。

各委員　異議なし。